―南アルプス、兎岳―

「赤石沢、奥赤石沢」

１１年８月８日～１２日

L 後藤　西村（文）

８日　＜晴れ＞

台風による土砂崩れで、心配していた畑薙ダム～椹島のバスも何とか運行しており、10:00 牛首から入渓することができた。林道から河原に下りると横浜から来た男２人のパーティーが身支度を整えていた。百間洞に入るという彼等は、我々が奥赤石沢に入ると言うと少しびっくりしていた。

奥赤石沢遡行は、記録も多くはなく我々も少し不安なところがある。特に源頭部のルートファインディングは要注意で、ルートを誤るとえらいことになるらしい。

男２人のパーティーを見送った後、我々も遡行開始。水量は少ないが、取水堰を越えないと本当の水量は分からない。特に怖い所はなく泳いだりへつったりして進む。途中 5m 程のナメ滝は空身で 10m 程泳ぎ、ザックを引き上げた。全身濡れているので寒くてたまらない。4mCS 滝は残置シュリンゲを掴んで A0 で突破。大岩帯では穴をくぐったりして結構飽きさせない。

赤石沢はその名の通り赤い岩が多く、また岩のスケールも大きく見た目に美しい。次から次へと現れる滝や淵、ゴルジュに飽きることなく遡行を続けることができる。そうこうするうちに取水堰に到着。後藤さんは前回来た時は泳いでダムを渡ったそうだが、今回は寒いので梯子を上って通過する。程なく進んだところで本日のビバーク予定の北沢出合いに到着。釣りをする時間は無く、夕立に慌ててタープを張り焚火を熾す。後藤さん手製の火吹き棒（釣り竿のケースを兼ねた物）が威力を発揮する。

９日　＜晴れ＞

6:50 テン場発。出発して間もなく数 m 程のナメ滝が現れるが水量が多く左岸を大きく巻く。後藤さんによると前回より水量はかなり多く、こんな所は巻かずに直登できたとのこと。門の滝はガイド通り右岸を大きく高巻く。草付きの岩場で高度感があり、ザイルを出したいが支点がなくノーザイルで怖々登る。途中小さなピナクルがあったのでやっと支点を確保することができた。

門の滝を越えゴルジュ帯を進むと大きな滝が現れる。ここは左岸の岩穴を空身 A0 で抜けるのだが、ザックが大きすぎて何度やっても揚げられず、しかたなく穴の外側から回収した。

大きく美しい赤岩を眺めながら進むが、水量が多いため小滝や淵も水線通しで進めるところは全くなく、大なり小なり巻きを強いられた。巻きで時間をかなり費やす。大ガランらしきガレ場をトラバースし神秘的な赤岩の淵を

越えるといよいよ大ゴルジュ帯だ。右岸のシシボネ沢の右側にあるルンゼを登り踏み跡をたどる。思ったより楽な巻きで難なくゴルジュを越えることができた。時間は 4:15。今日の遡行は巻きの連続で積極的にザイルを出したので大幅に時間を費やす。今日はここで終了だ。水線通しで少し不安だがテン場に決定。河原に苦労して柱を立てタープを張る。案の定、夕立が来て少し増水したが、すぐ止んでほっとする。今日も釣りはできなかった。

１０日　＜晴れ＞

7:20 テン場発。今日の予定は、3 時間程遡行して百間洞と奥赤石沢の出合付近にテン場を設け、ゆっくり釣りを楽しもうという寸法だ。小滝と淵が続きさして難しい所は無い。大岩の下をくぐったり、6m の滝の大淵は右壁の残置シュリンゲを使って慎重に越えたりとメリハリもあってなかなか面白い。

あっという間に目的の出合に到着。時刻は 10:10、荷物をデポして早速釣りに出る。後藤さんは百間洞へ、西村は奥赤石沢へ入る。結果は・・・。西村―ボウズ、後藤さん―入れ食い状態、あまりの差に唖然とする。奥赤石沢は大きな淵や釜がなく見た感じ居そうもない。西村の釣りの腕も初心者なので、居たとしてもだめだったのかもしれない。

晩餐は岩魚の塩焼きとムニエル。後藤さんのお陰でたらふくご馳走になる。あまりの美味しさに持ってきた酒を全部飲んでしまい、翌朝呆然とする。

１１日　＜晴れ＞

さあ、いよいよ本山行のハイライト、奥赤石沢遡行の開始である。7:00 テン場発。テン場を出てすぐ左から 10 段はあろうと思われる大きな滝がかかり、続いて 20m 程の直瀑が迫力を持って現れる。周りは草付きで視界が開けロケーションは最高である。沢自体は何の問題もなく単調な河原歩きが続く。詰めのルートは、標高 2300m の二股を左にとり兎岳避難小屋の東 200m 程の稜線に出るというもの。地図と高度計、磁石を見ながら二人で確認しつつ慎重に進む。小さな雪渓を越え水が消えたあたりから、岩が行く手を塞ぐように迫る。標高 2600m 付近でとうとう登れなくなり、止むなく右の尾根に逃げることにした。傾斜がきつくザイルを付けての藪コギだ。しかしこの藪コギがきつく、いつになったら稜線に出られるのか不安になる。3 ピッチこいだ所で藪が薄くなり先が見えてきた。

尾根に取り付いて約 2 時間、2:00 ちょうどやっと稜線に出た所で信じられない物が目の前に飛び込んできた。兎岳頂上の標柱である。何と予定ルートを誤り兎岳頂上から北東に伸びる尾根の東側を登っていたのだ。あれほど慎重にルートファインディングしたつもりが何ということか・・・。

後藤さんと散々検証した結果、高度を 50m 程誤り右の枝沢に入ってしまったようだ。ともあれ無事稜線に出られてほっとする。着替えを済ませ、ずっしり重くなったザックを背負って聖平小屋を目指す。疲労のため二人とも足取りは重い。7:00、　ちょうど暗くなった所で聖平小屋着。今日は 12 時間近い行動となり二人ともふらふら状態である。酒を山ほど買って祝杯を挙げた。

豊漁に V サイン

門の滝

赤の巨岩が美しい